

## 1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

○令和4年度の標準学力調査で、全学年の標準スコア50を目指す。

## 3. 指標にむけての取組

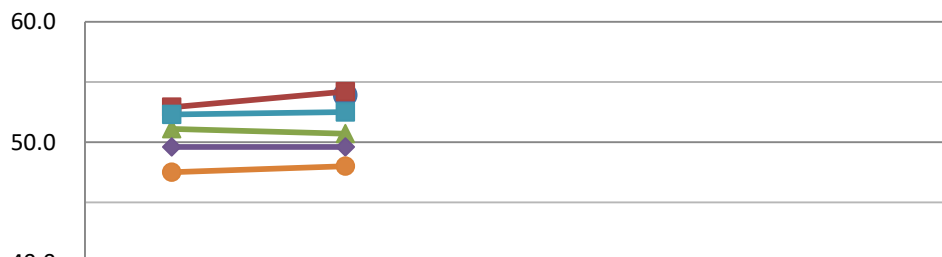
- 毎週末に全校一斉漢字(ひらがな・カタカナ)のテストを実施するとともに、専科等を配置し、国語の読み取り時間を実施する。
- 朝のチャレンジタイムにおける宿題の解説・漢字・MIMを行うとともに、「未来への一步」を活用した計算力の基礎基本の徹底を図る。

## 4. 調査結果

※学校の標準スコア平均(国語・算数)の2年間の推移 (標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

年度	3年度	4年度			
本校(A)	49.4	51.5			
嘉麻市(B)	47.0	47.2			
(A) - (B)	2.4	4.3	0.0	0.0	0.0
全国値との差 (A) - (50)	-0.6	1.5	-50.0	-50.0	-50.0

## 各学年の標準スコアの推移



	3年度実施	4年度実施			
4年度1年生		53.9			
4年度2年生	52.9	54.2			
4年度3年生	51.1	50.7			
4年度4年生	49.6	49.6			
4年度5年生	52.3	52.5			
4年度6年生	47.5	48.0			

## 5. 各学校における分析

学校全体の平均としては、標準スコアが国語科50.8、算数科52.5であり、目標指数を達成しているものの、学年によっては、達成できていない学年もあり課題である。

国語科においては、全学年に読み取りの時間を設定し、専科も関わりながら、問題を読み取ったり条件に合う文章を書かせたりしたことが有効だったと考える。

算数科においては、単元テストの全国平均通過率90%以上を目指し、習得が不十分だった問題や誤答の多い問題を中心に、繰り返し取り組んだことが一定の成果を上げ有効だったと考える。

少人数の学年が増え、時間内に課題を終わらせるという意識が低く、マイペースに取り組む姿が多かった。きめ細かな個に応じた取組よりも、一人一人が主体的に進んで学習に取り組めるよう、支援する必要がある。

## 6. 各学校における今後の取組

- 読書活動の充実(朝の10分間・週末・ノーメディアチャレンジ期間のうちどく)〈継続・充実〉
- 朝のチャレンジタイムでは、音読・宿題の解説・漢字・MIMを行う。〈継続・充実〉
- 1・2年生においては、MIMの計画的な実施による初期段階での読みのつまづきの克服と読むことへの意欲向上を図る。〈継続・充実〉
- 国語科で専科等を配置し、読解力を育む読み取り時間を全学年で実施するとともに、作文指導での個別指導を行う。〈新規・継続〉
- 算数科に於ける全国平均点通過率の向上〈継続・充実〉
- 前学年までの漢字が未定着の児童を対象とした隙間時間の指導を実施〈新規・継続〉
- 「未来への一歩」を活用した計算力の基礎基本の定着を図り、未達成の児童を対象とした隙間時間の指導を実施〈継続・充実〉
- 漢字・算数検定で「読み・書き・計算」の定着や学習意欲の醸成を図る。〈継続・充実〉

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流したりする場を設定する。